

石巻
2025
会議

石巻
2025
会議

～ぶっちゃけた話をしよう～

2019→2025

コンソーシアム ハグクミ

01 オープニング

石巻2025会議のキックオフイベント

実施日:2019年06月07日(金) 場所:IRORI石巻 参加者:32名

タイムテーブル:石巻2025会議の説明-昨年度の実績報告-今年度のテーマ共有-ハーフタイム-ワークショップ



登壇者



松村 豪太
一般社団法人
ISHINOMAKI2.0



矢口 龍太
いしのまき演劇祭



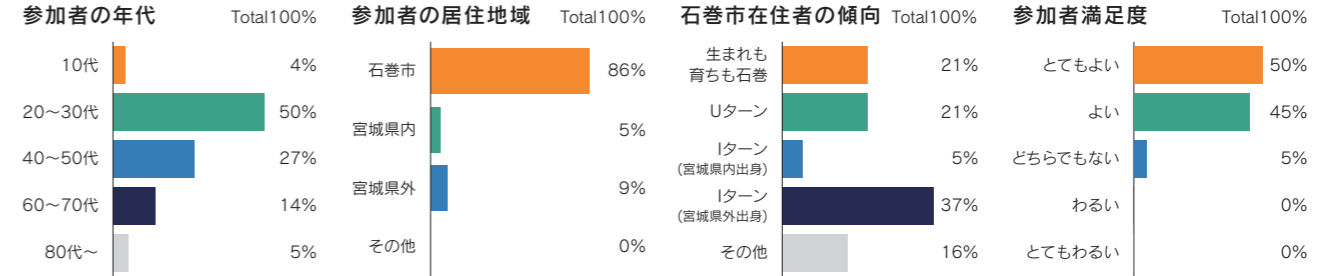
阿部 拓郎
石巻劇場芸術協会/
空想科学文化研究部



苅谷 智大
株式会社
街づくりまんぼう



三上 和仁
合同会社デザインナギ



石巻2025会議とは

石巻2025会議は「2025年」を軸に石巻の未来を考える場です。団塊の世代が75歳を超え、医療制度が崩壊する懸念が高まると推測される「2025年問題」。石巻も例外ではなく生産人口は減り、高齢者がますます増える時代がすぐそこまでやってきました。更に国が定めた復興期間は2011年から2021年までの10年間とされており、期間

終了後は様々な優遇措置が狭められる傾向になると推測されます。その上で復興から自立し、持続的な地域の運営を実現できるかどうかは復興期間である現在も含め、この数年が鍵になるはず。[復興から成長へ]持続的な地域を実現するべく、各分野のキーパーソンが結集し議論を通しながら地域の未来を想像し共有していきます。



ぶっちゃけた話をしよう

オープニングはキックオフイベントの位置付けて、ハグクミ代表の松村豪太氏の基調講演からスタート。「いいね! だけではなく全体テーマの『ぶっちゃけた話をしよう』という本音のディスカッションをしたい」と挨拶。続いて、今年度開催するテーマごとのリーダーが登場。文化part2、公共空間、食、地域経済part2、と続くテーマの課題と展望を

共有し、今後の会議の機運を高めました。後半は食テーマの議題を考えるワークショップ。石巻の食に関する新しいアイデアやサービスを考える設定で、参加者全員でディスカッション。2025会議ならではの多様な属性を持つ参加者から自由な意見が飛び交い、食テーマ本番への期待も膨らみました。



参加者の声

- アットホームな感覚があり、硬くない場の雰囲気があった。
- 新しく移住した方々も参加していて、様々な広がりや作られ続けている感じの中のスタートでよかったです。
- 前回、前々回よりも多様な方や行政の方も参加しており、また移住者も多く、よい地域交流の場になっていた。
- ワークショップの参加者が色々な角度から発言をしていて、石巻だけではなくゆくゆくは日本、世界につながるポジティブな考えをもっている事が良かったです。
- 移住したてなのに周囲の方がやさしく話してくれたおかげでリラックスして考えることができました…!!!



02 文化part2

8つの分科会を立ち上げ多方面から石巻の文化を考える

実施日:2019年07月12日(金) 場所:旧観慶丸商店 参加者:38名
 タイムテーブル:自己紹介-分科会ごとにディスカッション-ハーフタイム-全体共有



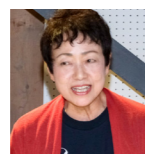
登壇者



登壇者
 テーマリーダー
矢口 龍太
 いしのまき演劇祭



西條 允敏
 石巻市文化協会



三國 裕子
 女優/演出家



武内 宏之
 公益財団法人
 石巻市芸術文化
 振興財団



曾根 史江
 山下地区協働の
 まちづくり協議会



都甲 マリ子
 演出家//パフォーマー



近江 瞬
 塔短歌会/短歌部カブカブ



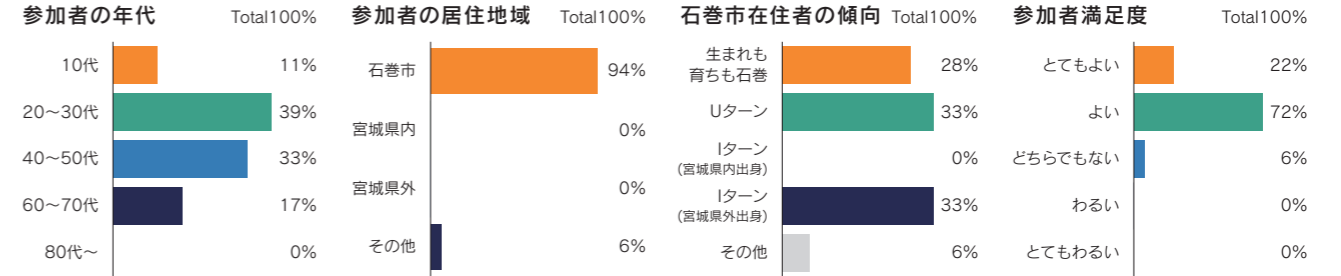
松村 豪太
 Reborn-Art Festival



斉藤 誠太郎
 一般社団法人
 ISHINOMAKI2.0



阿部 拓郎
 石巻劇場芸術協会/
 空想科学文化研究部



バージョンアップした文化の回

昨年度も実施した文化テーマ。前回は2025会議最多の参加者が集まったものの、文化という大きなカテゴリでは論点が複雑に絡みあい、収集がつかない事態になったため、今年度は分科会を準備し再度の開催。収益、文化は誰のもの?、学生、生業、市民活動、連携/継承、複合文化施設、ニュージェネレーションの8つの分科会にそれぞれリー

ダーを配置し、参加者は好きなテーブルでディスカッションができる形式にしました。カテゴリを絞ったことで議論は活発化し、アイデアも生まれやすい環境になりました。さらに会議終了後には会場を移動して「終了時間未定」の懇親会を開催。石巻の文化を愛する方々が夜通し議論を続ける展開へ。前回に続き、熱が伝わる会になりました。



テーマリーダーによるまとめ

様々なアイデアやキーワードが生まれましたが、その中でも「子供、学校、スポンサー、パトロン、税金、若い人に歩み寄り」という言葉が多く出てきました。石巻はかつて文化不毛の地と呼ばれていたこともあり、呪いの言葉のようになっていました。文化は人が快適に過ごすために生まれてきた行動の様式を指しますが、それは知能を使って行動し

た時から生まれたものだとは解釈することもできます。知能を使った行動とは言葉や文字を生み出した瞬間であり、その時に文化が生まれたと言えるでしょう。そう考えると2025会議でアイデアを出しあい、言葉や文字でお互いが思うことを共有できたことはいわば「文化育毛」と言えるのかもしれませんが、こういった場を続けていきましょう。



参加者の声

- みんな文化とは何かを考えている。
- テーマがわかれたおかげで話しやすかった。
- はじめの一歩が大事、これっきりにしないで続けて欲しい。
- 人の意見を聞ける/話せる環境だったので活発な意見交換ができた。
- テーマが多様な人を受け入れ、テーブル別のテーマも個性的で示唆的だった。
- 同じテーブルで出会った方々と同じ方向で話ができ、私の知らない話が聞けて楽しい時間でした。



03 公共空間

堤防を中心とした「新しい公共空間」を考える

実施日: 2019年10月11日(金) 場所: 石巻市かわまち交流センター 参加者: 30名

タイムテーブル: 自己紹介 - ディスカッション「みんなが好きな石巻の場所」 - ハーフタイム - ディスカッション「堤防をどう活用したら面白い場所になるのか」



登壇者



荻谷 智大
株式会社
街づくりまんぼう



阿部 勝浩
一般社団法人
石巻観光協会



毛利 壮幸
有限会社毛利屋



米澤 耕也
株式会社
元気いしのまき



勝又 秀樹
Onepark



谷 碧
NPO法人
まちの寄り合い所・
うめばたけ



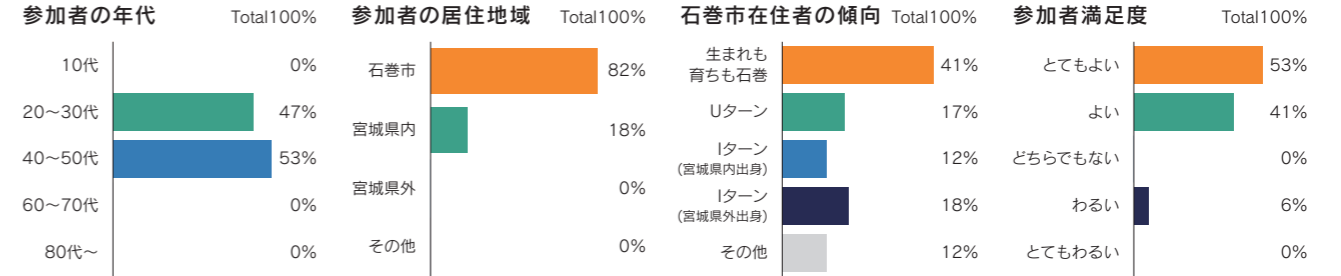
三浦 悠
株式会社
街づくりまんぼう



松村 豪太
一般社団法人
ISHINOMAKI2.0



勝 邦義
一般社団法人
ISHINOMAKI2.0



議題である堤防を目前に開催

テーマリーダーを街づくりまんぼうの荻谷智大氏が担当。会場は今回の中心議題でもある新しい公共空間「堤防」を間近に見ることができる石巻市かわまち交流センター。

そのような中で開かれたテーマ公共空間。普段から公共空間に縁がある登壇者を中心に議論を展開しました。

みんなで具体的な堤防の活用方法を考える

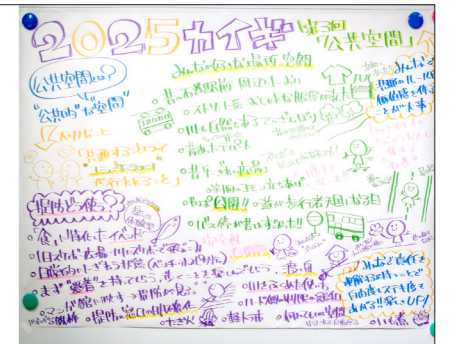
荻谷氏の公共空間を定義づけるプレゼンの後に「みんなが好きな石巻の場所」を議題にトークを開始。昔の橋通り、駅舎が2つあった時代の駅前、貞山堀、ショッパーズ、橋通りCOMMON、川開き祭りの街中、などそれぞれの想いと共好きな場所を挙げていきます。後半は前半に出た好きな場所を振り返りながら、本題の「堤防をどう活用したら面白い場所になるのか」を議題にディスカッションを進めていきます。ここでも様々なアイデアが生まれ、堤防と接している元気いちばマネージャーの米澤氏は「食のエンターテインメント空間を作りたい」と語り、Oneparkの勝又氏は「ス

ケートボードの大会など自由に使いたい、リスクよりもプレイヤーが楽しくなる方法を考えるのが一番ではないか」と提案。他にも日常で人が集まるための施策や、歩くに楽しい仕掛け、渡し舟や斜面を活かした流しそうめんをやりたいたいという声も出ました。管理面では毛利氏が「企画を相談する窓口があると良いのでは」と提案し、賛同を集めました。最後はテーマリーダーの荻谷氏が「ルールや規制も大事だが、新しいものを受け入れて実現できる方法を一緒に考えられる雰囲気大切にしていきたい」と話し、今後の堤防利用に期待感を持たせる内容で締めくくりました。



参加者の声

- 石巻について知らなかったことを知れて、考えるきっかけになってよかった。
- 今回コアなメンバーが集まったがいろんな(日ごろ見えない)ものがみえて刺激的だった。
- もう少し女性メンバーが多いほうが良いように思います。年配の方が居ても良さそうです。
- 石巻に人が集まる空間をいろいろな立場の人がアイデアを出し合って、考えてるのが素晴らしい! ぜひ実現する方法を!
- 短時間でたくさんの方のアイデアが出ていたので、みなさんの発想力がすごいと思うと共に他の地域でも取り入れられると思いました。
- いろんなアイデアや意見が集まる場だと思うので、留まることなく少しでも実現する方向に動いていけばいいなあと思います。



04 食

石巻の食の価値を上げるために必要なもの考える

実施日：2019年11月18日(月) 場所：IRORI石巻 参加者：31名

タイムテーブル：自己紹介 - ディスカッション「石巻の食の魅力とは？」 - ハーフタイム - ディスカッション「石巻の食の価値をあげるには？」



登壇者



加納 実久
一般社団法人
イシノマキ・ファーム



阿部 司
割烹 滝川



布施 太一
株式会社布施商店



松村 豪太
Reborn-Art Festival



森 優真
石巻産業創造株式会社



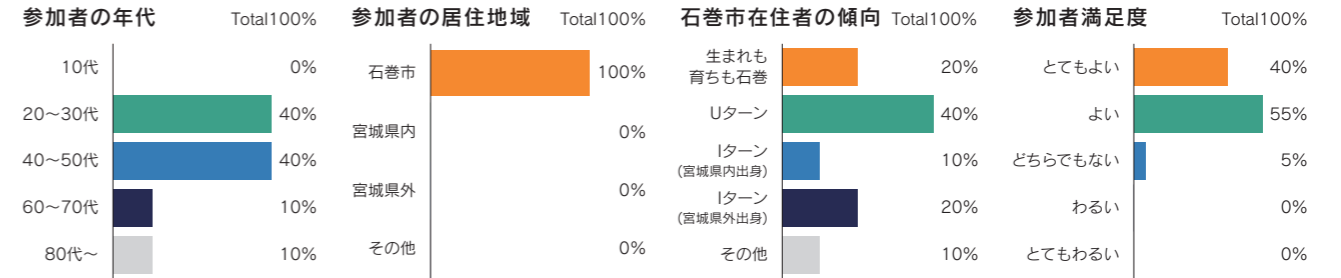
杉山 満之
有限会社杉山商店



高橋 由佳
一般社団法人
イシノマキ・ファーム



須能 邦雄
石巻魚市場



食のスペシャリストが集結

テーマリーダーをイシノマキ・ファームの加納氏が担当し、登壇者も料理人に水産加工会社、精肉店とバラエティ豊かな面々が集

まったテーマ食。さらに石巻魚市場相談役の須能氏も議論に参加し、石巻の食を多方面から考えていきます。

磨けば光る原石をどう磨いていくか

まずは加納氏が石巻の食の現状をプレゼン。一次産業従事者が多く、水産業が活発で農産品も豊富、地酒もあり食に強い地域と説明。そこから「石巻の食の魅力」を切り口に議論をスタートするも、早々に松村氏が「食は豊かだと思うが、その割に料亭が少なくブランドも根付いていないのではないかと問題提起。この意見に対し他の登壇者からも「美味しいものはたくさんあるがブランドは弱い」「地元のスーパーでも県外産の食材が並び違和感がある」と同調意見が生まれました。それに対し須能氏は「仕掛けの仕方が重要」と語り、料理人の阿部氏は「郷土料理

を見直すこと、地元の食材が中央ではなく地元で手に入れば魅力になる」と話しました。後半は加納氏が前半を振り返り「磨けば光る原石はある、その磨き方を考えたい」と石巻の食の価値を上げるためには何が必要か議論を開始。「真鱧の胃袋の活用、牡蠣殻の再利用、地元食材が買える朝市の開催、石巻の家庭料理の研究、行列を生み出すお店」といった具体的なアイデアから、「演出、はったり、仕掛け」といった見せ方を考えるキーワードも頻発し、多方面から食の磨き方を考える時間になりました。



参加者の声

- 「食」について生の声を聞いた。
- 生産者側やお店側のお話も聞くことができたので面白かった。
- 新しい価値観や、立地が違う中での視点が役に立った。
- あらためて若手で動かさなきゃいけないと思いました。
- リラックスした空間で、かた苦しさがなくよかった。
- 2025会議のなにか(商品企画etc)が出てくると楽しい!!
- 自由な意見交換ができ、圏外の人々との熱意に接する機会が得られた。
- 小さいながらも新しい芽となる、コミュニティができるきっかけになっている場になっている。
- もっともっと議論を行い、特産品や石巻に行きたいと思う人達を増やす提案と実践を。



05 地域経済part2

地域のお金の総量を増やす方法を考える

実施日：2020年01月17日(金) 場所：IRORI石巻 参加者：24名

タイムテーブル：自己紹介 - ディスカッション「地域で購入した高い買い物は？」 - ハーフタイム - ディスカッション「石巻の経済を改善するには？」



登壇者



松村 豪太
一般社団法人
ISHINOMAKI2.0



比佐野 皓司
信和物産株式会社



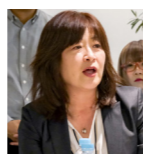
平塚 隆一郎
山徳平塚水産株式会社



高橋 寿
株式会社草新舎



伊藤 浩光
株式会社海遊



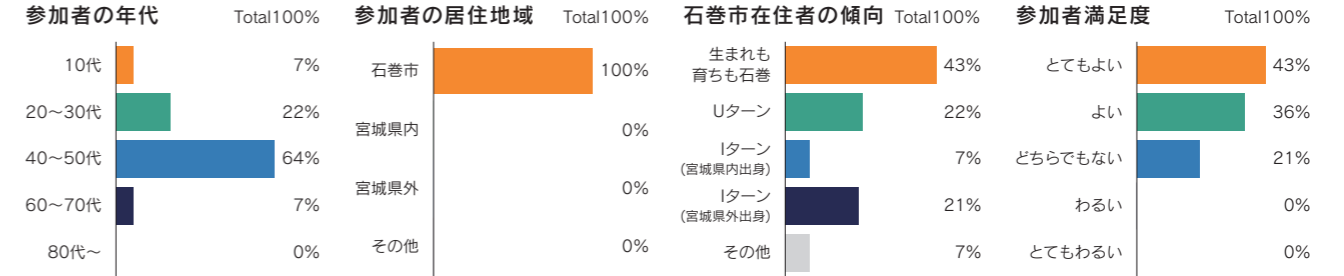
木村 美保子
株式会社
ゼン・インターナショナル



横山 翼
一般社団法人HitoReha



雁部 隆寿
一般社団法人
ISHINOMAKI2.0



地域経済を牽引するトップランナーが集結

昨年度も実施した地域経済。テーマとして深掘りできる要素が多いこともあり、今年度も開催しました。今回も地域経済を牽引

するトップランナーが集結、さらに起業を目指す若者も参加し、白熱したディスカッションを展開しました。

地域に回るお金を考える

まずテーマリーダーの松村氏が石巻の経済概要を説明。平均給与や地価などのデータを提示しながら石巻が置かれている状況を確認しました。その後、地域のお金を増やすには石巻の人がこの街でお金を使うことが大切だと前置きした上で「石巻で購入した大きな買い物」を切り口に議論を開始。ここでは「飲み代、宿泊、孫の服、鹿のレトルトカレー、土地、仲間のクラウドファンディング、建物の修繕、家」といった意見が集まり、特に飲み代に関しては多くの人が費用をかけていることがわかりました。後半は参加者側の話題提供から、不動産にまつわる話、唯

一無二の商品作り、さらに起業を目指す横山氏への先輩起業家からのアドバイスも場を盛り上げました。一般参加者からも「石巻に何があればお金を使うのか？」といった質問も飛び出し、そもそも物欲がない社長が多いのでは？といった意見も生まれました。多方面の話題が展開しながら最後は「石巻で買えるものは石巻で買い、地域に関わっていくことで人とのつながりを広げながら石巻の地域経済を回していくことが重要」という点を再度確認し、議論を締めくくりました。



参加者の声

- 継続していくことが大切。
- 人・人脈・信頼、大事なキーワードが聞けた。
- 地元経済人の御先輩方の生々しいお話、心に響いた。
- 様々な業界分野の方が実践している生の話が聞けたことが良かった。
- 「学びが大切」だったり地域の方とのつながりを大切にといったお話が聞えてとても心に残りました。
- 紹介するだけでなく、この場で新しい事業が動き出せるような場であれば更に良いと思う。
- さらに生粋の巻っ娘が(も)参加したくなる内容を希望します。
- これからの地域経済を考え、個別の事例ややりたい事業の紹介など、新しいものが知れたことに加え、その事例につながる人との交流の大切さを確認することができた。



06 クロージング

今年度の振り返りと来年度開催に向けて

実施日: 2020年02月21日(金) 場所: IRORI石巻 参加者: 26名

タイムテーブル: 自己紹介 - テーマ毎の振り返り - ハーフタイム - 来年度開催に向けたブレインストーミング



登壇者



松村 豪太
一般社団法人
ISHINOMAKI2.0



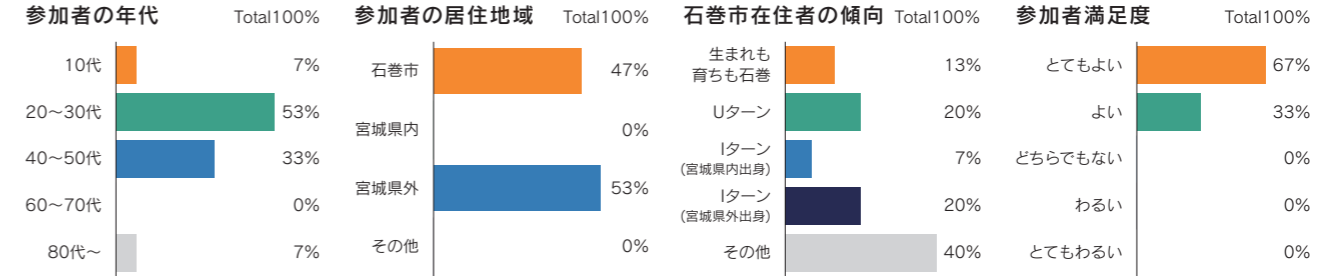
苅谷 智大
株式会社
街づくりまんぼう



矢口 龍太
いしのまき演劇祭



三上 和仁
合同会社デザインナギ



今年度の振り返り

1年を振り返るクロージングでは各テーマのリーダーが集まり、担当テーマの振り返りとその後の成果発表を実施。会場には復興庁

主催のインターン生も参加し、これまでのテーマ会議とはまた違った雰囲気場で進みました。



来年度開催に向けたアイデア出し

石巻2025会議の目的など詳しい説明の後、テーマリーダーが各回の振り返りを行いました。文化、公共空間、食、地域経済と今年度開催したテーマをその後のアクションなども交えて説明。当日参加が出来なかった人も議論内容を共有できる時間になりました。後半は来年度開催に向けて「議論したいテーマ」を議題に、全員でアイデア出しを実施。出てきたアイデアは多様で、「健康、支え合い、障がい、若者が集う場、教育、産学官連携、観光、石巻の持続可能性、複合文化施設、ストリートカルチャー、お金、石巻で1人で食べていくには、空き家、地域の食材、食

と小説、混流、LOVE、国際交流、情報の使い方、石巻ギャル会議」といった意見が出ました。またテーマだけでなく、2025会議の情報共有や広報といった運営面に対するアイデアも生まれ、さらに意義深い議論になりました。最後はハグクミ代表の松村氏が「この街の皆さんは世界中の誰もがしたことが無いような経験をされていて、自分が思っている以上にこの土地で考え、住んでいるということはとても貴重です。その経験を来年度も活かせるにしていきたい」と話し締めくくりました。



参加者の声

- 全員参加で雰囲気が良い。
- 今までの内容がよくまとまっていた。
- この街のことがもっとわかりました。
- 「想像の斜め上」な意見が多く出されていて、とても面白かったです。自分の考えの幅が広がりました。
- 今日出てきたテーマもぜひ話し合ってみたくです。
- いつもの生活では出会えないような人と関係を持てて話せた。
- 各回をYouTubeで見たい・その動画コメントが「カギ」に!?
- ライブ配信があればもっと盛り上がるし、私も参加したいと思いました!





あとがき

新型コロナウイルスの影響で、世界的に各種催しなどが中止になっている2020年の3月、この筆をとっています。テーマをきっかけとした物不足や買い占めに、恐ろしいのはウイルスよりも人間であると感じさせられ、「トイレに紙がありません」というコンビニエンスストアの手書きの張り紙や、華やかなことを慎むべしという閉塞感は、3.11後の世相を思い起こさせました。

一方、あの日から丸9年が経過しましたが、世間では効率性や利潤追求一辺倒だったそれまでよりもソーシャルやサステナビリティというキーワードが身近になり、そうした視点をもったサービスやビジネス、あるいは「生き方」が増えてきていることを感じます。

三度目となる「石巻2025会議」が無事終了しました。「ぶっちゃけた話をしよう」というテーマのもと、より良い石巻にするために、地元の経済人や文化の担い手から移住者、定期的に石巻に足を運び続けている首都圏の方まで、今年も多様な方々に意見の交換をしていただきました。笑いと情熱に富み、ハツとするような示唆をいただける「2025会議」に毎回かぶりつきで

参加できるのは主催者冥利に尽きるとありがたいと思います。

新しい視点やこれまでになかったようなアイデアが世の中に広まってきていると感じると先ほど述べましたが、そうした変化や動きには、多くの方が我が身を顧みず東日本大震災という未曾有の出来事も無縁ではないのではないのでしょうか。震源地に最も近かったこの地域には、瓦礫だらけの中でゼロから必死に生き続けようと考えた人々、復興支援をきっかけに移り住んだ人々など、活性度が高く視野の広い方々が他の地域よりも多く存在すると思います。そうした経験を経た人々が集う「2025会議」の場は、新しいアイデアを生み出し得る場であると同時に、あの日の経験や思いを忘れないようにする機会としても力を発揮し得ます。

未曾有の疫病に見舞われる世の中で、人と人の関係性を考え、不必要に委縮することなく、社会を動かし続けるためのヒントは未曾有の自然災害を経た経験にこそあります。そうした視点から、今後も多くの方と「ぶっちゃけた」前向きな話ができるようにと願い、筆をおかせていただきます。

コンソーシアム ハグクミ 代表 松村 豪太

石巻2025会議2019年度報告書
2020年3月31日 第1刷

編集
三上 和仁(合同会社デザインナギ)

デザイン・撮影
渡邊 樹恵子(合同会社デザインナギ)

議事録
増 悟嗣 (一般社団法人イトナブ石巻/ハグクミ)
加藤 奨人(一般社団法人イトナブ石巻/ハグクミ)

グラフィックレコーディング
山内 楓花(一般社団法人ISHINOMAKI2.0)
丸川 正吾
清水 葉月

発行
コンソーシアム ハグクミ
平成31年度石巻市スマートな地域資源活用創造事業

連絡先
一般社団法人ISHINOMAKI2.0
〒986-0822 宮城県石巻市中央二丁目10-2
TEL:0225-90-4982 FAX:0225-90-4983
<http://ishinomaki-iju.com/>
navi@ishinomaki2.com

コンソーシアム ハグクミ
一般社団法人ISHINOMAKI2.0、一般社団法人イトナブ石巻、合同会社巻組、一般社団法人石巻観光協会の4社によるコンソーシアム。
移住・定住の促進、ローカルベンチャーの推進、空き家活用、地域の情報発信など、多岐に渡る事業を展開している。
国内10以上の自治体に参加する「ローカルベンチャー推進協議会」の石巻事務局を務める。

◆取り扱いについて
本書の内容の一部あるいは全部を無断転載・複製・複写・インターネット上への掲載は、著作権法上認められている場合を除き、禁じられています。
本書のデータを引用する場合は、必ず出典を明記いただき、ハグクミまでお知らせください。